

宮城県臨床心理士会における  
南三陸仮設住宅支援活動の現状と課題  
2015.6.15 宮城県臨床心理士会 カフェ支援チーム

南三陸町について

○人口(南三陸町 HP より)が震災前より 665 戸、3,390 人減少している。

- ・平成 23 年 2 月末(震災前)世帯数 5,362 戸 総人口 17,666 人
- ・平成 26 年 9 月末現在 世帯数 4,697 戸 総人口 14,276 人

○被害状況

死者 620 人 行方不明者 213 人 (H27.5.31 現在・宮城県庁 HP より)

58 箇所の仮設住宅に 1,554 世帯(4,490 人)が生活 (H26.1.20 現在・南三陸町 Hp より)

カフェあづまーれ



2014 年 3 月リニューアル、  
最も大規模な仮設住宅内のカフェ  
で地元の社協が運営

2015 年 4 月より、日曜日は閉店。  
また、湯だけの提供となった。利  
用者はマイカップにインスタント  
コーヒーなどを持参している。(⇒  
仮設住宅後の生活に向けて)

システムは変更したが利用者は多  
い 2015 年 5 月の利用者数  
1 日平均約 37 人

カフェチームの動き

- ▶ 土日に 2~3 名で、月 4~5 回程度の派遣が可能  
(日曜日は小規模仮設住宅で『巡回お茶っこ会』を実施)
- ▶ 月 1 回のチームミーティングで情報共有
- ▶ 各派遣陣は報告書作成
- ▶ 平成 27 年 6 月 15 日までに **213 回 (第 218 陣) 延べ 504 名派遣**

活動の内容と課題 (各陣が作成した報告書を精査し、6つのカテゴリーに分類)

- ①「利用者の個別支援」→ 今後、特別なニーズをもった方、心理的な傷つきの深い方、心理士と 2 人きりになったときのみ語られる方など、個別的な支援を必要とする方を受けとめる受け皿をどう実現するか。

- ②「イベントの提供」 → 住宅へのひきこもり防止のためもあり、今後は地域の方々との協力と工夫が必要。また企業を巻き込んでの協賛活動も有用。

浮き球作り会



座布団を縫おう会



日常生活にあるものの利用⇒伊藤園さん「お茶っこ会」

日常の感覚を取り戻す、ゆったりした時間

他の支援プロジェクトとの合体⇒アシックスさんとのコラボ

“こころ“と”からだ”を元気にする

子どもの遊び場づくり⇒docomoさんのイベントにコラボ

親子で楽しむ・母親の話し相手になる

### ③「支援者の技術・心理支援」

- ・生活支援員さんを対象としてアロマの会を実施。 30名ほど参加。
- ・カフェ支援時に生活支援員さんのご苦労話などを意識してうかがっている。

### ④「関係機関、関係者をつなぐ役割」

具体的な事柄を通して、個別に現地の関係機関と連携をとっている。

- ・カフェチーム⇔被災者生活支援センター・各サテライト等
- ・ママかふえチーム⇔地元保健師

母子支援：1回、ママとお子さんが一緒に楽しく過ごせる企画、リラックスできる時間、子育てに関することを安心して話せる場を提供。→保健師の広報紙でPR

### ⑤「情報共有」 地元各機関を訪問

### ⑥「地域の底力向上の支援」 地域の活動に参加

復柘沢災害公営住宅

